長谷川 友美

星座の物語
【いるか座)】

レスボス島に暮らす詩人アリオンは、音楽の名手としても知られていました。コリントス王に音楽の腕を見込まれたアリオンは、シチリア島で行われる音楽の大会に出場することになりました。たくさんの賞金を手にしたアリオンはレスボス島のコリントス王の所に戻るため、船乗りたちと共に帰途につきます。

船はやがて沖合に出ました。そこでいきなり船乗り達はアリオンを取り巻きます。「もらった賞金は俺たちがいただくことにした。お前は海の底へ沈むがいい」。体をつかまれたアリオンは覚悟を決めると、最後に琴に合わせて歌を歌わせてほしいと頼みます。そのくらいはいいだろう、と船乗り達は最後の頼みを聞きました。アリオンは正装して船べりに立ち、哀しい調べを奏でました。その音色に海の魚たちも集まり、いつしかイルカの群れが船を取り巻きました。演奏が終わるとアリオンは船からえいっと身を投げます。すると不思議なことに、一匹のイルカがアリオンを背に乗せると、そのままレスボス島まで泳いでアリオンを助けたのでした。後から島に戻った船乗り達はコリントス王に、アリオンは賞金を持って逃げた、と嘘の報告をしました。事情を知る王は彼らを許しませんでした。天から見ていたゼウスはイルカを讃えて星座にしたということです。

【誠文堂新光社　「星座と物語の見つけ方　星座がもっとみたくなる」より】

いるか座には明るい星はありませんが、菱形に見える星の並びは昔から注目されてきました。日本でも江戸時代から「ひしぼし」と呼ばれていたそうです。

:..。o○☆゜・:,。:..。o○☆*:..。o○☆゜・:,。*:..。o○☆*:..。o○☆゜・:,。*:..。o○☆*:..。o○☆゜・:,。*:..。o○☆*:..。o○☆゜・:,。*:..。

せっかくのメインイベントがあいにくの雨になってしまいましたね・・・。

ずっと楽しみにしていたのに悔しい限りです。今年の夏はキレイな星空になかなかお目にかかれないですね。

星を見る時間が空きますので、間繋ぎの意味も込めて久しぶりに原稿を書きました。

前回は２０１４年の１月だったみたいです。

今回の星座の物語は、晴れてたらワシ座の辺りに見えただろう「いるか座」です。

そして何となく夏っぽいですから。イルカ。